

阿賀野川自然再生検討会（第1回）

議事要旨

【開催概要】

開催日時： 平成24年9月3日（月）15:00～17:00

開催場所： 新潟市万代市民会館3階

【議事次第】

- 1 開会
- 2 議事
 - ・河川環境の課題、要因分析報告
 - ・自然再生の考え方について
 - ・整備形状について
- 3 閉会

【審議内容】

事務局より阿賀野川の課題、要因分析、自然再生の考え方について説明した。主な意見は以下の通り。

（1）河川環境の課題、要因分析について

- 1) 河道の単列化要因として、砂利採取とダム堆砂が考えられるが、護岸整備もみお筋固定に寄与する可能性があるため、低水路整備とみお筋変動との関係とを整理しておくことよい。
- 2) どのようにして砂礫河原を再生していくかが課題である。きっかけを作れば自然の営力で再生されていくのか、継続的に人工的な対応が必要なのか、シミュレーション等を用いた検討が必要である。
- 3) ワンドがどのような過程で生成・消滅したのか把握することが重要である。ただし、シミュレーションで再現できるスケールは、ワンドのスケールに比べて粗いため、実務に適用するのはまだ難しい。
- 4) 早出川の中上流の県管理区間では、現在でもワンドに湧水が湧出する理想的な環境が残されている。
- 5) 海から遡上してくるアユやイトヨなどの減少は、海的环境条件も関与するため、要因を特定することが難しい。
- 6) 環境変化の分析にあたっては、空撮写真や横断面図重ね合わせだけでなく、3次元河床地形図をつくり、俯瞰してみると良い。

（2）自然再生の考え方について

- 1) 河川環境の変化に応じて、従来利用していなかった鳥が生息域として利用するようになるなど、阿賀野川は鳥類にとって非常に良い環境と言える。河川管理において特段気にする必要はないと考えられるが、治水上問題がない樹林については残しておくことが望ましい。
- 2) 整備メニューで挙げている、砂礫河原や湿地のような不安定な環境にこそ、川らしい重要な種が生息・生育している。
- 3) 例えば、植物のタコノアシ、砂礫河原でないと営巣できないコアジサシなどがあり、コアジサシのような攪乱依存種を指標生物にすることは重要である。
- 4) コアジサシを保護するため河床改変を見送ったところ、草地化し利用されなくなったとの事例もあるため、動的平衡な状態で河川環境が維持されていることが重要である。

(3) 整備形状について

- 1) 阿賀野川のような、大きい川を動かそうとするのは難しい面がある。目標を持ち、現地試験を重ね、2～3年間のモニタリング結果を検証しながら、進めていきたい。
- 2) 砂礫河原の断面形状については、土砂が再堆積する心配もあるが、長期的に維持されるよう、様々な検討が必要である。
- 3) 早出川の捷水路区間は、旧河道に比べ広い低水路が確保されており、河川規模的にも現地試験を行う河川として、適していると考えられる。整備にあたっては、河川地形の変動シミュレーションを適用し、検討していく。
- 4) 自然再生により新たな治水上の弱点が生じては困るため、シミュレーションを活用するなど、自然再生と治水安全性が両立できるような方法を議論していきたい。

(4) その他

- 1) 第二回検討会の日程は、後日、調整する。

以上